

お経のことば

すなわち、生死流转の世界において實には消滅する
ことも誕生することもありません。
世界は、人々がこれが世界であると見るようなもの
ではありません。 妙法蓮華經 如來壽量品第16 訳 大角修

ここでは今までに2回、妙法蓮華經を取り上げていますが、今回紹介いたします如來壽量品は、この經典の中で最も親しく読誦されているものであり、且つ法華經の神髓が説かれる章にあたります。

惟るに、法華經とは誠に不思議な經典であります。例えるならまるでマトリヨーシカのように、法華經に登場する無量の仏・菩薩・善男子・善女子さらには護法善神とされる神々までもがその法華經を読誦し讀えているという、まさに法華經の中に法華經があるという構成になっています。

そして二廻三会^{ニショサンエ}という時空間を超越したスケールでお釈迦様の説法は展開され、また法華七喻と呼ばれる衆生教化にあたっての方便が巧みに語られます。第1号で紹介しました法句經とは全くといっていいほどその趣は異なっており、初めて法華經を読まれる方は恐らくその壮大な世界觀に圧倒されることでしょう。

さて、上の言葉は如來壽量品の前半『亦無在世 及滅度者～不如三界 見於三界』を意訳したものになります。

結論から申しますと、「消滅することも誕生することもない」とは、つまりそこに永遠を見出すことなのです。なぜ生死流转の世界の中で永遠を見出し得るのか、それには自我という認識が果てしなく広がった先にある、『自分は大いなるものの一部である』という気づきが必要なのです。

一見、甚だ思い上がったかのような気づきに見えますが、それはまったく自惚れではなく、調和という『安心』なのです。なぜなら、自我の認識を広げるその主体とは我欲による煩惱の食指ではなく、他者への共感による慈悲の眼差しからです。

その眼差しによって、世界を正見する時、全てのものは一つであることがわかり、また唯一のものが全てに遍く満ち充ちていることがわかるのです。ここで言う他者とは、なにも人に限らず、人も含んだ自然万物諸事一切のことです。例えば人間の経済活動を取り上げても、日々数字と格闘する人たちのお蔭で社会の信用は担保され、当たり前に車が走るのも汗を流して道路を作った人がいるお蔭なのです。

また、唯物的に言い換えて、人ひとりを構成するの全ての細胞は外界の自然との間で行われる供給と排泄の関わりによって、その体躯と恒常性が維持されており、それも調和なくしては成り立たないのです。

斯くて生死とは、まるで小さな自我の井戸の中から見上げる星空のようなもので、もし我々が法華經の教えに習って無限の地平線に解き放たれたならば、そこには果てしない星空が広がり、我々は本来永遠の生命の調和に包まれていることに気づくのです。

法華經に説かれる世界とは、ここじゃない何処かではなく、我々が日々生きるこの世界のことであり、そこで如何に生きるのかを御釈迦様は説法されています。

● 1月28日（土曜日） 解る！般若心経

午前9時と午後3時の二回 護摩の後に般若心経を解説します

● 3月20日(月祝日) 第二回献茶彼岸会

午前10時と午後2時（各自お位牌とお茶碗をお持ちください）

● 毎月28日 柱源護摩供・ヨーガ体操

柱源護摩供は午前9時と午後3時の2回です。

※葬儀が重なると変更される場合があります。

護国寺

781-2155

高知県高岡郡日高村九頭291

0889-24-7244

ホームページ gokokuji.site

仏事に関してのお悩み、ご質問、
行事に関するお問い合わせ等、
お気軽にお電話ください。

